

2013年2月13日

日本医学会 各分科会理事長・会長、及び評議員の皆様

「戦争と医の倫理」の検証を進める会

代表世話人 赤羽根巖
代表世話人 石川 徹
代表世話人 西山勝夫
事務局長 住江憲勇

パネル集「戦争と医の倫理」のご送付、及び日本医学会での検証に関するお願い

謹啓 日本医学会の各分科会理事長・会長、及び評議員の皆様には、日本の医学研究の促進と、医の倫理および医学・医療の向上のため、日夜ご尽力なされていますことに敬意を表します。

さて、iPS細胞に象徴されるように、現在の医学・医療の歩みは著しく、ますます医学者・医師に高い倫理観が求められています。これに応えるためには、私たちが医学・医療のこれまでの歩みを真摯に振り返ることが重要な課題の一つと考えます。なかでも、日本の医学医療が進歩・近代化し始めた昭和の初期、「15年戦争期」及びそれに続く「戦後期」の医の倫理にかかわる反省、教訓を生かすことは欠かせません。

当会は、日本の医学者・医師等がかつての戦争中に731部隊等で行った「人体実験」などの非人道的行為を、医学界が史実にそって検証し、その教訓を明らかにすること、及び、そのことを通じて、人間の尊厳や人権を基本とするこれからの医学・医療の発展に寄与することを目的に活動しています。

その一環として、当会では「戦争と医の倫理ードイツと日本の検証史の比較」をテーマに、昨年11月17日、京都大学でドイツの代表も招き国際シンポジウムを開催しました。また、「戦争と医の倫理ー日本の医学者・医師の『15年戦争』への加担と責任」のパネル展示を、昨年9月～11月の期間に、明治大学平和教育登戸研究所資料館、立命館大学国際平和ミュージアム、保団連医療研究集会（東京・都市センターホテル）、京都大学国際交流ホールの4会場で開催しました。

参加者や来場者からは、「このような史実の検証は大事であり、今後の医学・医療にも生かして欲しい」等と、医学・医療関係者への期待を込めた声が多数寄せられました。

同封の「パネル集『戦争と医の倫理』ー日本の医学者・医師の『15年戦争』への加担と責任」は、展示したパネルを発刊したものです。検証活動の一助として是非ともご覧いただきたく、ご送付申し上げます。

以下は、各医学会の皆様への「戦争と医の倫理」の検証に関するお願いでございます。

「過去に目を閉ざす者は結局のところ現在も見えなくなる（ワイツゼッカー、1985年）」という歴史の教訓に沿い、2010年11月、ナチス時代に精神科医によって死に追いやられた25万人以上の精神障害者について謝罪を表明し、会長による追悼講演がなされたドイツ精神医学精神療法神経学会（詳細はパネル集108ページ、及び添付の「精神神経学雑誌第113巻第8号別刷」をご参照下さい）や、2012年5月、「様々な人権侵害の罪を犯したことに対して、我々は深い遺憾の意を表し

ナチ医学の犠牲者に許しを乞う」宣言を行ったドイツ医師会総会などに学び、かつての戦争における日本の医学者・医師の非人道的行為について、史実を明らかにし、検証を進めることは、医の倫理の確立やこれからの医学・医療のために不可欠と考えます。

その際、日本の医学界・医療界を代表する日本医学会、日本医師会や関わった学会・大学などが自らの問題として取り組むことは欠かせないのではないのでしょうか。

以上の趣意について、是非とも日本医学会としての検証、及び2015年開催の第29回日本医学会総会の企画としての検証を、ご検討いただきたくよろしくお願い申し上げます。

なお、貴医学会として当会と懇談等の機会をいただければ幸甚に存じます。

謹白

<同封資料>

- *パネル集「戦争と医の倫理－日本の医学者・医師の『15年戦争』への加担と責任」
- *添付「ドイツ精神医学精神療法神経学会（DGPPN）の2010年総会における謝罪表明
フランク・シュナイダー会長の談話「ナチ時代の精神医学－回想と責任」
（精神神経学雑誌 113 巻第8号別刷）

「戦争と医の倫理」の検証を進める会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5（新宿農協会館5階）

全国保険医団体連合会 内

TEL. 03-3375-5121 FAX. 03-3375-1862

e-mail tadashi-mri@doc-net.or.jp

URL <http://AVIC.doc-net.or.jp>